

SDGs 推進や多様な人材登用で底上げを

日本公認会計士協会北部九州会 宮本義三 会長

北部九州3県（福岡・佐賀・長崎）の会員、準会員で構成する日本公認会計士協会北部九州会の会長に6月20日付で宮本義三副会長が就任。業界の動向や活動方針を聞いた。

（取材・広田晃平）

—まずは就任の抱負を。

宮本 ここ3年はコロナで思うように対外的な情報発信や意見交換の活動ができなかった中で、地域企業や経済団体などとりアルに對話しながらできることを伝えていければと思います。

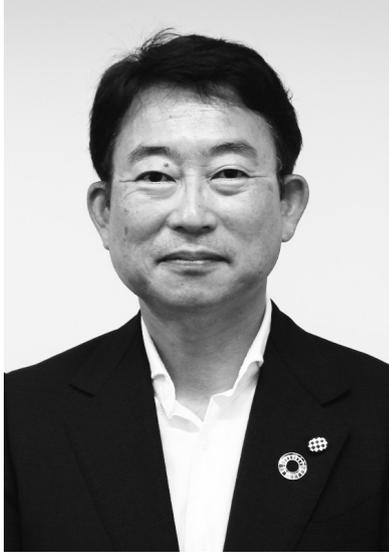
現在、公認会計士は国内に約3万3千人おり、従来は監査法人に所属している会員が多かったのですが、今ではそういった会員は半分以下です。それ以外の方々

宮本 起業やスタートアップ

は組織内会計士として勤務したり、社外役員として経営に参画したり、税務やコンサルティングをされていたりと活躍の場が広がってきており、社会からの期待も高まってきています。北部九州会でもそういった会員がそれぞれの立場で活躍できるようにサポートしていきたいですね。

—北部九州会で力を入れて取り組むについて。

みやもと よしぞう
宮本 義三
会長



大牟田市出身。1969年3月11日生まれ53歳。九州大学経済学部卒。92年10月太田昭和監査法人（現・EY新日本有限責任監査法人）入所。2007年7月から新日本有限責任監査法人（同）パートナーを務めている。公職では19年6月から日本公認会計士協会北部九州会副会長を務めていた。趣味はゴルフ、釣り、登山

企業の育成に力を入れている自治体が多く、福岡証券取引所もIPOに積極的に取り組んでおり、会員のこれらの企業などへの支援も活発です。当会では商工会議所の支援や、各種工業団体と共同して組成した福岡専門職団体連絡協議会を通じた支援など、事業再生や事業承継などにも支援提供できる体制を整えています。

の職域が広がってきていることに伴い、業界に多様な人材に入ってきてもらいたいと考え、「D&I（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）推進委員会」を設置しました。活動が本格化するのはいくつかありますが、男女問わず業界に興味を持ってもらうために、女子大や女子高校などを含めたさまざまな教育機関に対して制度説明会を実施し、さまざまなフィールドで活躍している会計士を紹介できればと考えています。関連して、以前から実施していることですが、会計リテラシー普及のための小学生向け講座「ハロー会計」も定期的に開催しているほか、試験合格者のための実務補習所も運営しています。

宮本 国際的な新たな組織として国際サステイナビリティ基準審議会が設立され、非財務情報の重要性が高まっていることなどを踏まえ、「SDGs推進委員会」を設置しました。我々も知見

—最近では女性の試験合格者数も増えてきています。

を高め、クライアントや地域の経済団体が健全で持続可能な社会を作ることに對してサポートできるよう取り組んでいきます。

宮本 良いことですね。約20%まで上がってきています。会計士の仕事は出産や育児などのライフイベントから復帰しても対応しやすい職種だと思います。

—新たな会計士人材の確保も必要になってきますね。

協会としては2030年度までに30%まで上昇させることを目標としています。

宮本 その通りです。会計士